

University Information

宇都宮大学 UTSUNOMIYA UNIVERSITY

■峰キャンパス 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350

■陽東キャンパス 〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2

URL:https://www.utsunomiya-u.ac.jp



質の高い「学びのコミュニティ」をDXにより提供 デジタル時代に即した「自律的学修者」を育てる

デジタルツールの導入により
能動的な学修意欲を醸成

変化の激しい時代の中、自らの意思で主体的に物事に取り組み「自律的学修者」を育成するために、宇都宮大学は積極的な教育改革を進めています。近年では、高等教育機関におけるDXの推進支援を行う文部科学省の取り組み「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」の実施機関として採択され、デジタルツールを生かした新たな教育改革プランを構築中です。

このプランで鍵となるのが、学生の学修状況を把握するための「e-ポートフォリオ」、履修状況や成績を管理する「教務システム」、および効果的な学修環境を提供する「LMS(Learning Management System)」を一元管理すること。これら3つの連携により、学修状況の把握や、成績を基にした指導、学生の適性に合った就職先の分析が可能になります。現状の課題とビジョンを明確にすることで、学生の能動的な意欲を刺激しながら、効率的な学修を推進していきたいと考えています。

ブレンドディッド・ラーニングで
多様な学修とコミュニティを創出

DXの推進に伴いオンデマンドの授業が増加し、自由度の高い学び方として学生に好評を得ています。しかし、よく考えなければならぬのが、それが真に学生のためになる学修環境なのかということ。実際、オンデマンドでは授業に対する姿勢や理解度の正確な把握は困難ですし、また、グループワークのようなリアルな体験を通じなければ得られない学修効果があることも事実です。

そこで、さまざまな形式を組み合わせて授業を進めるブレンドディッド・ラーニングを推進しています。例えば、授業テーマに関する知識はオンデマンドで配信。テーマについての学生同士の議論は対面授業で行います。学生にとって効果的な授業形式を適宜取り入れる体制を整え、



長谷川 光司
宇都宮大学 学長特別補佐

知識だけでなく発想力やコミュニケーション能力を培う、分野を横断したコミュニティによる学びの機会を提供しています。「宇大スタンダード」を基盤に新たな知を創造できる人材へ

近い将来、地方創生において中心的な役割を担える人物を育てるべく、「宇大スタンダード」と呼ばれる4年間の学士課程教育を通じた達成目標標準を設けています。その理念は、現代社会に必要なリテラシー、未知の事態に的確に対応できる幅広く深い教養と豊かな人間性、そして、知と行動力を統合し、新たな知を創造できる人間としての基盤を育成すること。AIをはじめとした多様な科学技術が進歩していく時代の流れを踏まえ、データサイエンス教育を本格化させたこともその理念に通じています。

情報があふれる現代社会において必要とされるのは、重要な情報を取捨選択し、自ら発信できる能力。そのために、宇都宮大学では、主体的に物事を考え、学びに取り組む「自律的学修者」を育成します。

TOPICS

宇大の数理・データサイエンス教育

多種多様な大量のデータから価値のある情報を抽出し、課題解決や意思決定に生かすための力を養う取り組みが「データサイエンス教育」だ。宇都宮大学の基盤教育センターでは、すべての学生が数理・データサイエンスを日常生活や仕事で使いこなせる基礎的素養として身に付けることを目標に、基盤教育科目として3つの数理・データサイエンス科目を開講。2021年度には、これらの科目によって構成される「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム（基礎コース）」をスタートさせた。

データサイエンス入門

(Introduction to Data Science)

データサイエンスの基礎(データサイエンス・AIの概要や、社会での利用の例、初歩的なデータ解析手法)に加え、Office系ソフトウェアとウェブブラウザ、電子メールの標準的な使い方やハードウェアの基本的な使い方、総合メディア基盤センターPCと学内LAN環境の理解などの内容を、講義と実習を併用した形式で学修。すべての学生が、情報化社会で必要不可欠となるデータリテラシーと情報リテラシーを修得することを目標としている。

実践データサイエンス

(Practical Course of Data Science)

身の回りの家電やスマートフォンなどで活用されているAI技術や、実験・フィールドワークの計画(意思決定)、日々の学業・仕事などで直面する煩雑な繰り返し作業やデータ収集の自動化についてなど、普段の生活に関連したトピックを題材に、説明形式や体験形式で学修。データ分析について学びながら、データサイエンスの実践的な内容を理解することを目標としている。

ブレンドディッド・ラーニングの推進と 多面的評価による自律的学修者の育成

～LMSと連携したe-ポートフォリオの活用を通じて～

- Point 1**

教員からの評価、自己評価、ピア評価の最大3段階評価を可能とするために、ルーブリック*とe-ポートフォリオによって可視化された学修目標と成果を提示。
*ルーブリック:学修目標の達成度を判断するための評価ツール
- Point 2**

オンライン上で学生・教員からなる学修コミュニティを形成。学修状況に応じたデジタルコンテンツの利用を可能とするデータベースを構築する。
- Point 3**

ブレンドディッド・ラーニングの実施状況や、各授業科目のGPAや学生のパフォーマンス、学修前・中・後における学生の理解度などを調査し、可視化する。

新たな学修評価制度 学生同士で行う「ピア評価」

e-ポートフォリオとLMSの連携によって、新しく「ピア評価」を始めます。ピア評価とは、学生同士がお互いを評価し合う制度です。この制度の利点の1つは、教員からの一方的な評価とは異なり、より率直な意見を交換できる点。もう1つは、他者の評価を通じて、自身を多様な側面から振り返ることができるところです。さらに、e-ポート

フォリオでは、学修評価基準のルーブリックを事前に示すため、次に何を学ぶべきかを明確にできます。まずは、評価を「成績をつけるため」ではなく、「より深い学びを促すため」のものに進化させることが目標です。それと同時に、学修状況の把握により意欲の向上した学生に向けて、学修支援を提供するコミュニティの形成や、デジタル学修コンテンツの配信など、オンライン上で学びを深められる制度も整備していきます。